



## CNS イベント エージェント

---

- [機能情報の確認, 1 ページ](#)
- [CNS イベント エージェントについて, 1 ページ](#)
- [CNS イベント エージェントの設定方法, 2 ページ](#)
- [CNS イベント エージェントの設定例, 5 ページ](#)
- [その他の関連資料, 5 ページ](#)
- [CNS イベント エージェントの機能情報, 7 ページ](#)

### 機能情報の確認

ご使用のソフトウェアリリースでは、このモジュールで説明されるすべての機能がサポートされているとは限りません。最新の警告および機能情報については、『[Bug Search Tool](#)』およびご使用のプラットフォームとソフトウェアリリースに対応したリリースノートを参照してください。このモジュールに記載されている機能の詳細を検索し、各機能がサポートされているリリースのリストを確認する場合は、このモジュールの最後にある機能情報の表を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

### CNS イベント エージェントについて

#### Cisco Networking Service イベント エージェント

その他の Cisco Networking Service エージェントを設定できますが、**cns event** コマンドが入力されるまで他の Cisco Networking Service エージェントは稼働しません。これは、Cisco Networking Service イベント エージェントがその他のすべての Cisco Networking Service エージェントの Cisco Networking Service イベント バスへの転送接続を提供するためです。その他の Cisco Networking Service エ

ジェントは、Cisco Networking Service イベントバスへの接続を使用してメッセージを送受信します。Cisco Networking Service イベントエージェントは、メッセージの読み取りおよび変更を行いません。

## CNS イベントエージェントの設定方法

### Cisco Networking Service イベントエージェントおよび EXEC イベントの設定

#### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **cns config partial** {*host-name* | *ip-address*} [**encrypt**] [*port-number*] [**source** *interface name*] [**inventory**]
4. **logging cns-events** [*severity-level*]
5. **cns exec** [**encrypt**] [*port-number*] [**source** {*ip-address* | *interface-type-number*}]
6. **cns event** {*hostname* | *ip-address*} [**encrypt**] [*port-number*] [**backup**] [**failover-time** *seconds*] [**keepalive** *seconds* *retry-count*] [**source** *ip-address* | *interface-name*][**clock-timeout** *time*] [**reconnect-time** *time*]
7. **exit**

#### 手順の詳細

|        | コマンドまたはアクション   | 目的   |
|--------|--|--|
| ステップ 1 | <b>enable</b><br><br>例：<br>Device> enable  | 特権 EXEC モードをイネーブルにします。<br><br>• パスワードを入力します（要求された場合）。  |
| ステップ 2 | <b>configure terminal</b><br><br>例：<br>Device# configure terminal  | グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。   |
| ステップ 3 | <b>cns config partial</b> { <i>host-name</i>   <i>ip-address</i> } [ <b>encrypt</b> ] [ <i>port-number</i> ] [ <b>source</b> <i>interface name</i> ] [ <b>inventory</b> ]<br><br>例：<br>Device(config)# cns config partial 172.28.129.22 80 | (任意) Cisco Networking Service 設定エージェントを起動します。これにより、シスコクライアントに Cisco Networking Service 設定サービスが提供され、差分（部分）設定が開始されます。<br><br>• コンフィギュレーション サーバのポート番号を指定するには、オプションの <i>port-number</i> 引数を使用します。デフォルトは 80 です。 |

|        | コマンドまたはアクション   | 目的   |
|--------|--|--|
|        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• Cisco Networking Service 設定エージェントの通信の送信元として IP アドレスを使用するように指定するには、オプションの <b>source</b> キーワードと <i>ip-address</i> 引数を使用します。</li> <li>• HTTP 要求の一部として Cisco Networking Service 設定エンジンにデバイスのラインカードとモジュールのインベントリを送信するには、オプションの <b>inventory</b> キーワードを使用します。</li> </ul> <p>(注) SSL をサポートするイメージに限り、オプションの <b>encrypt</b> キーワードを使用できます。</p>  |
| ステップ 4 | <b>logging cns-events</b><br><i>[severity-level]</i><br><br>例：<br><br><pre>Device(config)# logging cns-events 2</pre>  | <p>(任意) XML フォーマットのシステム イベントメッセージ ログイングを Cisco Networking Service イベント バスを介して送信できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• メッセージをログに記録する重大度の番号または名前を指定するには、オプションの <i>severity-level</i> 引数を使用します。デフォルトはレベル 7 (デバッグ) です。</li> </ul>  |
| ステップ 5 | <b>cns exec [encrypt] [port-number]</b><br><b>[source {ip-address   interface-type-number}]</b><br><br>例：<br><br><pre>Device(config)# cns exec source 172.17.2.2</pre>   | <p>(任意) Cisco Networking Service EXEC エージェントをイネーブルにし、設定します。これにより、シスコ クライアントに Cisco Networking Service EXEC サービスが提供されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• EXEC サーバのポート番号を指定するには、オプションの <i>port-number</i> 引数を使用します。デフォルトは 80 です。</li> <li>• Cisco Networking Service EXEC エージェントの通信の送信元として IP アドレスを使用するように設定するには、オプションの <b>source</b> キーワードと <i>ip-address/interface-type number</i> 引数を使用します。</li> </ul> <p>(注) SSL をサポートするイメージに限り、オプションの <b>encrypt</b> キーワードを使用できます。</p> |
| ステップ 6 | <b>cns event {hostname   ip-address}</b><br><b>[encrypt] [port-number] [backup]</b><br><b>[failover-time seconds]</b><br><b>[keepalive seconds retry-count]</b><br><b>[source ip-address   interface-name][clock-timeout time] [reconnect-time time]</b><br><br>例：<br><br><pre>Device(config)# cns event 172.28.129.22 source 172.22.2.1</pre> | <p>シスコ クライアントに Cisco Networking Service イベント サービスを提供する Cisco Networking Service イベント ゲートウェイを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• SSL をサポートするイメージに限り、オプションの <b>encrypt</b> キーワードを使用できます。</li> <li>• イベント サーバのポート番号を指定するには、オプションの <i>port-number</i> 引数を使用します。デフォルトは、11011 (暗号化なし) および 11012 (暗号化あり) です。</li> <li>• このゲートウェイがバックアップ ゲートウェイであることを示すには、オプションの <b>backup</b> キーワードを使用します。バックアップ ゲートウェイを設定する前に、プライマリ ゲートウェイが設定されていることを確認します。</li> </ul>                       |

|        | コマンドまたはアクション                                       | 目的  |
|--------|--|---|
|        |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• バックアップ ゲートウェイへのルートが確立された後、プライマリ ゲートウェイのルートを待機する時間間隔 (秒) を指定するには、オプションの <b>failover-time</b> キーワードと <i>seconds</i> 引数を使用します。</li> <li>• キープアライブ タイムアウト (秒) および再試行回数を指定するには、オプションの <b>keepalive</b> キーワードと <i>seconds</i> および <i>retry-count</i> 引数を使用します。</li> <li>• Cisco Networking Service イベント エージェントの通信の送信元として IP アドレスを使用するように指定するには、オプションの <b>source</b> キーワードと <i>ip-address/interface-name</i> 引数を使用します。</li> <li>• 正確なクロックを必要とする転送 (SSL など) にクロックが設定されるのを Cisco Networking Service イベント エージェントが待機する最大時間 (分) を指定するには、オプションの <b>clock-timeout</b> キーワードを使用します。</li> <li>• 最大再試行タイムアウトの設定可能な上限を指定するには、オプションの <b>reconnect-time</b> キーワードを使用します。</li> </ul> <p>(注) <b>cns event</b> コマンドを入力するまで、Cisco Networking Service イベントバスへの転送接続は確立しません。そのため、その他の Cisco Networking Service エージェントは稼働しません。</p> |
| ステップ 7 | <b>exit</b><br><br>例 :<br><br>Device(config)# exit | グローバル コンフィギュレーション モードを終了し、特権 EXEC モードに戻ります。   |

### トラブルシューティングのヒント

- Cisco Networking Service イベント エージェントが Cisco Networking Service イベント ゲートウェイに接続されていることを確認するには、**show cns event connections** コマンドを使用します。
- イメージ エージェントのサブジェクト名が登録されていることを確認するには、**show cns event subject** コマンドを使用します。Cisco Networking Service イメージ エージェントのサブジェクト名は `cisco.mgmt.cns.image` で始まります。

# CNS イベント エージェントの設定例

## 例 : Cisco Networking Service エージェントのイネーブル化および設定

次に、`cns config partial` コマンドで設定エージェントをイネーブルにすることから開始してさまざまな Cisco Networking Service エージェントをイネーブルにして設定し、リモートデバイス上で差分（部分）設定を行う例を示します。Cisco Networking Service 設定エンジンの IP アドレスは 172.28.129.22、ポート番号は 80 です。Cisco Networking Service EXEC エージェントを IP アドレス 172.28.129.23 で、Cisco Networking Service イベント エージェントを IP アドレス 172.28.129.24 でイネーブルにします。Cisco Networking Service イベント エージェントをイネーブルにするまで、他の Cisco Networking Service エージェントは動作しません。

```
cns config partial 172.28.129.22 80
cns exec 172.28.129.23 source 172.22.2.2
cns event 172.28.129.24 source 172.22.2.1
exit
```

次に、CLI を使用して Cisco Networking Service イメージエージェントパラメータを設定する例を示します。GigabitEthernet インターフェイス 0/1/1 の IP アドレスを使用するようにイメージ ID を指定し、Cisco Networking Service イメージ エージェント サービスのパスワードを設定し、Cisco Networking Service イメージアップグレード再試行間隔を 4 分間に設定し、イメージ管理サーバおよびステータス サーバを設定します。

```
cns id GigabitEthernet0/1/1 ipaddress image
cns image retry 240
cns image password abctext
cns image server https://10.21.2.3/cns/imgsvr status https://10.21.2.3/cns/status/
```

次に、Cisco Networking Service イベント バスを使用するように Cisco Networking Service イメージ エージェントを設定する例を示します。ネットワークング デバイスのハードウェア シリアル番号としてイメージ ID を指定し、複数のパラメータを指定して Cisco Networking Service イベント エージェントをイネーブルにし、Cisco Networking Service イメージ エージェントをキーワードまたはオプションを指定しないでイネーブルにします。Cisco Networking Service イメージ エージェントは、Cisco Networking Service イベント バス上でイベントを待ち受けます。

```
cns id hardware-serial image
cns event 10.21.9.7 11011 keepalive 240 120 failover-time 5
cns image
cns image password abctext
```

## その他の関連資料

### 関連資料

| 関連項目           | マニュアル タイトル   |
|----------------|--|
| Cisco IOS コマンド | <a href="#">『Cisco IOS Master Commands List, All Releases』</a> |

| 関連項目  | マニュアルタイトル   |
|---|---|
| Cisco Networking Service コマンド：コマンド構文の詳細、コマンドモード、コマンド履歴、デフォルト設定、使用上の注意事項、および例。 | 『Cisco IOS Cisco Networking Services Command Reference』   |
| Cisco Networking Service 設定エンジン (CE)  | 『Cisco CNS Configuration Engine Administrator Guide, 1.3』 |

### 標準および RFC

| 標準/RFC   | タイトル |
|--|------|
| この機能によりサポートされる新規または変更された標準/RFC はありません。またこの機能による既存の標準/RFC のサポートに変更はありません。 | --   |

### MIB

| MIB  | MIB のリンク  |
|--|---|
| この機能によってサポートされる新しい MIB または変更された MIB はありません。またこの機能による既存 MIB のサポートに変更はありません。 | 選択したプラットフォーム、Cisco ソフトウェア リリース、およびフィチャセットの MIB を検索してダウンロードする場合は、次の URL にある Cisco MIB Locator を使用します。<br><br><a href="http://www.cisco.com/go/mibs">http://www.cisco.com/go/mibs</a> |

### シスコのテクニカル サポート

| 説明  | リンク   |
|---|---|
| シスコのサポートおよびドキュメンテーション Web サイトでは、ダウンロード可能なマニュアル、ソフトウェア、ツールなどのオンラインリソースを提供しています。これらのリソースは、ソフトウェアをインストールして設定したり、シスコの製品やテクノロジーに関する技術的問題を解決したりするために使用してください。この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。 | <a href="http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html">http://www.cisco.com/cisco/web/support/index.html</a> |

## CNS イベントエージェントの機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェアリリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 1 : Cisco Networking Service イベントエージェントの機能情報

| 機能名                                 | リリース   | 機能情報   |
|-------------------------------------|--|--|
| Cisco Networking Service イベントエージェント | Cisco IOS XE 3.8S<br>12.0(18)ST<br>12.0(22)S<br>12.2(2)T<br>12.2(33)SRA<br>12.2(33)SB<br>12.2(33)SXI | Cisco Networking Service イベントエージェントは、Cisco IOS アプリケーションが Cisco Networking Service イベントバス上でイベントを発行し、加入できる、Cisco IOS インフラストラクチャの一部です。Cisco Networking Service イベントエージェントは、Cisco Networking Service 設定エージェント機能と連携して動作します。<br><br>この機能により、 <b>cns event</b> 、 <b>show cns event connections</b> 、 <b>show cns event stats</b> 、 <b>show cns event subject</b> の各コマンドが導入または変更されました。 |

